

コスタリカ経済定期報告(2025年9月)

2025年9月

在コスタリカ日本大使館 経済班

※出典:コスタリカ中央銀行(BCCR)、財務省、貿易省(COMEX) 及び貿易振興機構(PROCOMER)。主な出来事については当地新聞記事¹⁾による。

1 主要経済指標

	2024年	2025年			
	12	5	6	7	8
累積輸出総額 FOB(100 万ドル)	19.899,7	8.901,5	10.939,7	13.049,6	NA
累積輸入総額 CIF(100 万ドル)	23.661,7	10.202,9	12.395,7	14.551,6	NA
貿易収支(100 万ドル)	-3.762,0	-1.3014	-1.4559	-1.502	NA
財政収支対 GDP 比(%)	-3.77	-1,08	-1,16	NA	NA
消費者物価指数(CPI:2015 年 6 月を 100 とする)	110,39	109.42	109,47	108,91	108,67
為替(通貨はコロン・1 米ドルあたり買値・月末値)	506.66	502.81	502,00	502,69	502,99
為替(通貨はコロン・1 米ドルあたり売値・月末値)	512.73	509.94	508,28	508,35	509,25
政策金利(%) (年末・月末)	4.00	4.00	4,00	3,75	3,75
基本預金金利(%) (年末・月末)	4.13	3.91	3,91	3,86	3,86
外貨準備高(100 万ドル) (年末・月末)	14,170.6	14279.55	14.811,7	14.605,4	15.246,4

2 米国の格付け会社ムーディーズは、コスタリカの信用格付を Ba3 から Ba2 へ格上げした。

コスタリカ財務省はプレスリリースで、ムーディーズが、GDP に占める公共債務の割合が減少、資金調達コストが削減されたことを評価したと述べた。

この格付の変更は、主に3つの要因によるものである。支出上限の厳格な遵守、公的債務と国家の流動性のより効率的な管理、そして国際的な環境が悪化しても堅調な経済成長を維持する能力である。ムーディーズは、コスタリカが財政責任を維持し、国家の収入と財政の柔軟性を強化する改革を達成すれば、さらなる信用支援を受ける可能性がある」と指摘した。しかし、財政規律の逆転や流動性の制約は、マイナスの影響をもたらす可能性がある」と警告した。

3 コスタリカは、今年度中の環太平洋パートナーシップ協定 (TPP) 加盟をめざしている。

CPTPP に加盟すると、日本と初の FTA を結ぶことになる。CPTPP を構成する 12 か国のうち、コスタリカは半数の国々と自由貿易協定を結んでいる。物品の交換を促進する協定を結んでいない国々の中で、日本は取引額が最も多い。

コスタリカ貿易振興機構 (Procomer) のデータによると、2024 年には日本との間で総額 11 億 1000 万ドルの取引が行われ、そのうち 2 億 4300 万ドルはコスタリカの輸出、8 億 6700 万ドルはコスタリカに輸入される日本製品によるものである。「日本の場合、経済が補完的であるという特徴がある。日本経済と日本の輸出品目は、コスタリカが将来輸出できる可能性のある製品と補完的であるため、貿易によって輸出の多様化とさらなる成長の機会を得ることができる唯一の国だ」と、国際貿易の専門家であるレンゾ・セスペデス氏は指摘している。

現在のコスタリカと環太平洋諸国との貿易状況では、2 億ドル以上の医療機器が、メキシコ、英国、日本への主要な輸出製品となっている。一方、現 CPTPP 加盟国からコスタリカが最も多く輸入しているのは電子機器である。このカテゴリーでは、集積回路およびプリント回路 (6 億 8200 万ドル) が最も多く、次いでスマートフォン (1 億 200 万ドル)、電線および電気材料 (1 億 2600 万ドル) が続く。自動車などの輸送用機器に関しては、コスタリカは主に日本から 4 億 7900 万ドル以上を輸入している。

コスタリカ国内の農業部門は、この協定が国内生産を弱体化させる競争上の脅威となるとして、同協定への反対を表明している。しかし 2024 年の数値を見ると、同部門においてもコスタリカは環太平洋

¹⁾ ラ・ナシオン紙、エル・ディアリオ・エクストラ紙、ラ・レプブリカ紙、エル・フィナンシエロ紙等

諸国との間で4億1200万ドルの貿易を維持しており、貿易収支はプラスとなっている。
主な輸出品としては、バナナ（9500万ドル）、パイナップル（7000万ドル）、コーヒー（2700万ドル）があげられる。さらに、スイカ（700万ドル）とキャッサバ（600万ドル）が農業輸出の品目を補完している。輸入品に関しては、小麦（5,500万ドル）、アボカド（2,700万ドル）、リンゴ（1,000万ドル）、ブドウ（700万ドル）が、コスタリカが最も多く購入している製品である。

4 複数の企業セクターがカルデラ港近代化事業の入札加速を要請した。

コスタリカのビジネス界の代表者たちは9月17日に、会計検査院（CGR）に対し、カルデラ港の近代化事業の入札プロセスの早期承認を求めた。この要請は、2025年7月31日の同院決議によって生じた遅延を受けて行われたものである。この決議において同院は、湾岸運営会社 DP ワールド（本拠地：ドバイ）による同事業の入札仕様書への異議申し立てを部分的に認めた。その結果、コスタリカ太平洋港湾公社（Incop）は仕様書の変更が必要となり、入札の受付を当初予定していた8月8日から11月7日に延期した。

貿易大臣マヌエル・トバル氏は、この事態が生産部門、輸出、国内消費者に「さらに大きな圧力」を加えていると述べている。「会計検査院は、カルデラ港の崩壊が国内経済の崩壊を招くという事態の深刻さと規模を理解しなければならない」と彼は付け加えた。

以下、この呼びかけを支持する団体

- ・ コスタリカ商工会議所（CCCR）
- ・ コスタリカFZ企業協会（Azofras）
- ・ コスタリカ貿易会議所（Crececx）
- ・ 輸出業者協会（Cadexco）
- ・ コスタリカ食品産業協会（Cacia）
- ・ 情報通信技術商工会議所（Camtic）
- ・ 全国貨物輸送業者協会（Canatrac）
- ・ 情報通信技術商工会議所（Infocom）
- ・ 全国養鶏業・養鶏関連企業会議所（Nave）
- ・ 全国農業・農産業会議所（CNAA）
- ・ 工業会議所（CICR）
- ・ コスタリカ民間企業協会（Uccaep）
- ・ コスタリカ北米商工会議所（Amcham）

*この要請に対して会計検査院は、2025年8月5日に審議は終了しており、以降の手続きの遅れはIncopの責任であるとの声明を出している。

5 医療機器の輸出がコスタリカの海外売上高に占める割合は2020年から2024年で33.2%から43.6%に増加した。2025年の7月までの医療機器の輸出総額は63億500万ドルに達し、同国の輸出総額（131億4800万ドル）の48%を占めた。この10年間で、このセクターの売上高は、2015年の21億1086万ドルから、2024年には86億7800万ドルへと、311%の増加を記録した。

6 国立統計・国勢調査研究所（INEC）の発表した統計によると、コスタリカの女性管理職の平均賃金額は男性管理職の平均賃金を上回った。OECD加盟国の男女間の賃金格差ランキングの結果からも、コスタリカは格差が少ない国として知られている。しかしこれは、収入の高い管理職における女男の賃金格差が大きい（今般INECが発表したデータによると、管理職や経営職の女性の収入は同職の男性よりも60万コロン以上高い）平均化された結果である。2025年第2四半期、ほとんどの職種で、男性の平均月収は女性よりも高かった。

（了）